

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 6 月 28 日 (2007.6.28)

【公開番号】特開 2006-12439 (P2006-12439A)

【公開日】平成 18 年 1 月 12 日 (2006.1.12)

【年通号数】公開・登録公報 2006-002

【出願番号】特願 2004-183524 (P2004-183524)

【国際特許分類】

H 0 5 B 6/12 (2006.01)

F 2 4 C 7/04 (2006.01)

【F I】

H 0 5 B 6/12 3 2 4

H 0 5 B 6/12 3 1 2

F 2 4 C 7/04 3 0 1 A

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 5 月 10 日 (2007.5.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

調理器本体の天面に被調理物を載置する天板を装着すると共に、この天板の下方に熱源を配置し、かつ上記天面の適所に熱源の火力等を設定入力する操作部を備え、制御手段により上記操作部等からの入力に基づいて熱源を制御することで被調理物を加熱するものにおいて、上記制御手段を、上記操作部からの入力操作が予め設定した所定時間以上継続した場合には、入力操作が行われる前の動作に復帰する様に構成した事を特徴とする加熱調理器。

【請求項 2】

上記制御手段に音声機能を設けると共に、上記操作部からの入力操作が予め設定した所定時間以上継続した場合には、音声により注意メッセージを報知する様に構成した事を特徴とする、上記請求項 1 に記載の加熱調理器。

【請求項 3】

上記制御手段に人体の接近を検出する人体センサを設けると共に、この人体センサにより人体の接近を検出時には上記所定時間以上の入力操作を受け付ける様に構成した事を特徴とする、上記請求項 1 または 2 に記載の加熱調理器。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0008
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0008】

本発明の請求項2の構成は、請求項1の構成において、制御手段に音声機能を設けると共に、操作部からの入力操作が予め設定した所定時間以上継続した場合には音声により注意メッセージを報知する様に構成したものである。

【手続補正5】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0009
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0009】

又本発明の請求項3の構成は、請求項1または2の構成において、制御手段に人体の接近を検出する人体センサを設けると共に、この人体センサにより人体の接近を検出時には所定時間以上の入力操作を受け付ける様に構成したものである。

【手続補正6】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0011
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正7】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0012
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正8】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0013
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0013】

本発明の請求項2に記載の構成により、操作部からの入力操作が所定時間以上継続した場合には、音声により注意メッセージを報知する様に構成したことで、誤操作を迅速に報知し、誤操作による調理の中断等を極力防止する事が出来るものである。

【手続補正9】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0014
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0014】

本発明の請求項3に記載の構成により、人体センサにより人体の接近を検出時には、操作部からの所定時間以上の入力操作を受け付ける様に構成したことで、調理器本体の設置直後等操作に慣れない場合には、長めに操作してもその操作を受け付ける様に構成することで、使い勝手を良くする事が出来るものである。